

令和 6 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会

議事概要

日 時：令和 7 年 1 月 24 日（金）15：00～16：30

場 所：TKP 新橋カンファレンスセンター（対面とオンライン（Webex）の併用）

（YouTube 環境省動画チャンネルにて同時配信）

出席委員：大聖座長、西園委員、丹下委員、酒井委員、秋山委員、南斉委員、本藤委員

環 境 省：地球環境局総務課脱炭素社会移行推進室 岡野企画官、長澤係長、松原主査、

石井係員、石田環境専門調査員

オブザーバー：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス 畠中マネジャー、

小坂高度技能専門員

事 務 局：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（MURC）（森本、寺川、川島、佐藤）

株式会社数理計画（岡田）

1. 開会

○ 事務局（MURC 寺川）：開会の案内。

- ・ 令和 6 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会を開催する。本日の検討会は、対面とオンライン併用のハイブリッドで開催させていただく。開催の状況は YouTube 環境省動画チャンネルにて同時配信される。

○ 環境省（岡野企画官）

- ・ 本日はご多用のところご出席いただき感謝する。また、先生方におかれては各分科会でもご指導・ご協力いただいております、重ねて御礼申し上げます。
- ・ 冒頭の挨拶にあたり、今年度のインベントリ関係の話題について手短にご紹介する。まず、温室効果ガスインベントリに関して、昨年 4 月よりパリ協定下での提出に移行し、隔年透明性報告書（BTR）の一部として取り扱われることとなった。BTR は、パリ協定に基づく 2030 年度排出削減目標に向けた我が国の進捗状況や将来予測が国際的に評価される非常に重要なものであり、第 1 回の提出となる BTR を、我が国は昨年 10 月末に COP29 に先立つ形で、先進国で初めて条約事務局へ提出することができた。
- ・ また、今年度は現行の地球温暖化対策計画の策定から 3 年目を迎えるとともに、各国が本年の 2 月までに次期 NDC の提出を求められることから、現在、温対計画の改定、および次期 NDC の策定に向けた検討が大詰めを迎えているところである。
- ・ このインベントリは、地球温暖化対策の施策等を検討する際の基礎となる極めて重要な情報になるため、可能な限り国の実態に即して排出量と吸収量を算定する必要があるとともに、パリ協定下における着実な達成を目指すためにも、国内の各施策による削減効果を適切に反映する必要がある。委員の皆さま方におかれては、我が国の実態を踏まえた排出・吸収量の算定方法の精緻化、新規算定等の今年度の各分科会の検討結果について活発なご議論をお願いし、冒頭の挨拶とさせていただく。本日はどうぞよろしくお願い

いする。

- 事務局 (MURC 寺川) : 委員の紹介。
- 大聖座長
 - ・ 本日の議事は 3 件あり、議事次第にあるとおり、1 件目は令和 6 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会の開催について、2 件目は 2025 年に提出する温室効果ガスインベントリの算定方法等について、3 件目にその他となっている。それでは議事に入る。

2. 議事

(1) (1) 令和 6 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会の開催について

- 環境省 (岡野企画官) : 資料 1 「令和 6 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会の開催について」を説明。
- 一同 : 特になし

(2) 2025 年に提出する温室効果ガスインベントリの算定方法について

- 本藤委員 : 資料 2-1 「エネルギー・工業プロセス分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 南斉委員 : 資料 2-2 「CCU 分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 大聖座長 : 資料 2-3 「運輸分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 西菌委員 : 資料 2-4 「HFC 等 4 ガス分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 秋山委員 : 資料 2-5 「農業分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 丹下委員 : 資料 2-6 「土地利用・土地利用変化及び林業 (LULUCF) 分野における排出・吸収量の算定方法について」を説明。
- 酒井委員 : 資料 2-7 「廃棄物分野における排出量の算定方法について」を説明。
- 大聖座長
 - ・ 各委員からのご報告について、ご意見やご質問があればお伺いしたい。
- 本藤委員
 - ・ CCU 分野に関する質問である。「本分科会で対象とすべき技術や CO₂ カウント上の論点などを抽出」とあるが、どのような技術を対象とすべきか、もしくは、論点はどのようなものが抽出されたか、ご紹介いただければありがたい。
- 南斉委員
 - ・ 今回は決定には至らなかったが、特に合成メタンや e-fuel などは、国内でもメタネーション関係の議論が進んでいるので、議論が進んでいるところからインベントリへの計上の準備をしていくことが重要であるということは話し合っている。
 - ・ 具体的な論点の抽出は、おそらく次年度の CCU 分科会で議論することになる。ただ、例えばバイオ炭は農業分科会で取り扱うべきかといったように、CCU の技術全般を CCU 分科会で検討するのか、もしくは他分科会で議論するのかという点を含めて、全体との整合性を取りながら進めていくのではないかと考えている。また来年度、追加的な方針が決まったらご報告したい。

- 本藤委員
 - ・ ご説明に感謝する。CCU はエネルギー・工業プロセス分科会とも関連が深いので、引き続き情報交換をできればよいと思う。
- 酒井委員
 - ・ CCU 分科会の南斉委員から CCU 分野としての説明があった。IPCC では CDR・CCUS に関する方法論の検討が始まっていることが冒頭で紹介があったが、CCUS ではなく CCU の分科会としている背景や理由、あるいは今後 CCUS をどう扱っていくかということに関して、紹介していただける内容があればお話ししたい。
 - ・ せっかくの機会なので、あえて聞かせていただいている。冒頭で岡野企画官から紹介があったので、この分科会の位置づけについて、もし意図があれば、そのことをお答えいただいても結構である。よろしくお願いします。
- 大聖座長
 - ・ Storage も含めてということか。環境省より回答をお願いします。
- 環境省（岡野企画官）
 - ・ Storage については、経済産業省が実証事業等を進めており、IPCC ガイドラインの中にも Storage についてはかなり細かい記載がある。CCU に加えて Storage についても議論が深まってきて、算定方法検討会において CCU に加えて検討すべきという方向性になってきたら、分科会の名前の変更等も考えていくべきと事務局は考えている。各座長の先生方とご相談しながら、どのように進めていくべきかというのは検討させていただければと思う。IPCC での議論がまさに始まろうとしているので、状況を注視し、情報連携を密にしながらやっていきたい。
- 大聖座長
 - ・ 廃棄物関係では、排出された CO₂ をキャプチャーして使うという CCU の試みが、当然これからある程度出てくるのではないかなと思う。他にご質問・ご意見はないか。
 - ・ それでは、ご意見がないようなら、本日ご提示いただいた算定方法に基づいて 2023 年度温室効果ガス排出・吸収量を含めて、2025 年に提出する温室効果ガスインベントリの算定を進めていただければと思っている。

(3) その他

- 事務局（MURC 森本）：資料 3 「今後のスケジュール」を説明。
- 一同：特に意見なし。大聖座長
- 大聖座長
 - ・ それでは、最後に事務局から連絡事項等があればお願いします。
- 事務局（MURC 寺川）
 - ・ 本日の議事概要は、事務局で取りまとめ、委員の皆さまにご了承いただいた後に環境省 Web サイトで公表する。ご協力よろしくお願いします。

3. 閉会

○ 大聖座長

- ・ 以上で閉会とする。本日はご協力に感謝する。

(以 上)